

## 市場の季節性

一般的には12月には入ると市場の取引量は減り、値動きも少なくなる。外資の為替ディーラーたちは11月までにボーナスの査定を終え、12月の成績はそれほどボーナスの金額に影響しない。マネージメント側も収益がぶれることを好まない。だから多くのディーラーはクリスマスまで休暇を取る。

今年はどうだろう。ユーロ問題という大きなイベントがあるので、これまで成績の思わしくなかったものは大きく儲けて、なんとかボーナスを上げてもらおうとする。大きな儲けでなければボーナスの査定額が変わる可能性は少ないからだ。そうしたディーラーがユーロがらみのポジションで勝負している。

12月も1週間が過ぎた。市場ではユーロ崩壊の可能性も指摘されているが、そのわりにユーロは底堅い。結局あきらめてユーロのショートポジションを閉めて、休暇に出かけた者も少なからずいる。

他の通貨はどうか。円やスイスフランはまるで固定相場制に戻ったかのような安定ぶりだ。短期間に大きな利益を上げられる可能性は少ない。

人民元は長期的には人民元高のトレンドが明白だが、短期では小さな幅の上下動を繰り返しているだけだ。

となるとポンドか。来年は景気失速、量的緩和政策の拡大など売り材料満載だ。ポンドは売る通貨と信じているディーラーにとっては引き込まれる局面だ。何度もショートカバーを強いられても、ディーリングの癖は直らない。こんな時は休暇を取って市場に参加しないことが最良のロスカットだ。

それでも今週末はEUの首脳会議が控えている。ユーロの運命を左右すると目されている会議だ。実際はそこでも白黒決着されず、これまでと同様、問題がだらだら続くにしても、休暇はそのイベントの結果を見てからと考えるのが普通だろう。

来週の米国便などは例年とは違って満席状態だそうだ。